

関税暫定措置法の一部を改正する法律（案）新旧対照条文

（傍線の部分は改正部分）

改 正 案	現 行
<p>関税暫定措置法（昭和三十五年法律第三十六号）</p> <p>（シンガポールの特定の貨物に係る関税の緊急措置）</p> <p>第七条の八 新たな時代における経済上の連携に関する日本国とシンガポール共和国との間の協定（以下この条において「シンガポール協定」という。）に基づく関税の譲許（以下この条において単に「譲許」という。）による特定の種類の貨物（シンガポール協定第十四条１の規定に基づき譲許の便益の適用を受けるものに限る。）の輸入の増加の事実（第八項において「シンガポール特定貨物の輸入増加の事実」という。）があり、当該貨物の輸入の増加が重要な原因となつて、これと同種の貨物その他用途が直接競合する貨物の生産に関する本邦の産業に重大な損害を与え、又は与えるおそれがある事実（第八項において「本邦の産業に与える重大な損害等の事実」という。）がある場合において、国民経済上緊急に必要があると認められるときは、シンガポール協定第十八条１の規定に基づき、政令で定めるところにより、貨物及び期間（一年以内に限る。）を指定し、次の措置をとることができる。</p> <p>一 （省 略）</p> <p>二 指定された期間内に輸入される指定された貨物の全部につき、又は当該貨物のうち一定の数量若しくは額を超えるものにつき、次のうちいずれか低い税率の範囲内において関税率を引き上げること。</p> <p>イ 関税率法別表に定める税率（第二条の税率の適用があるときは、その適用される税率）及び協定税率のうちいずれか低いもの（以下この項及び第六項並びに次条第一項第一号イ及びロ、第六項並びに第十項第二号イ及びロに</p>	<p>関税暫定措置法（昭和三十五年法律第三十六号）</p> <p>（シンガポールの特定の貨物に係る関税の緊急措置）</p> <p>第七条の八 新たな時代における経済上の連携に関する日本国とシンガポール共和国との間の協定（以下この条において「シンガポール協定」という。）に基づく関税の譲許（以下この条において単に「譲許」という。）による特定の種類の貨物（シンガポール協定第十四条１の規定に基づき譲許の便益の適用を受けるものに限る。）の輸入の増加の事実（第八項において「シンガポール特定貨物の輸入増加の事実」という。）があり、当該貨物の輸入の増加が重要な原因となつて、これと同種の貨物その他用途が直接競合する貨物の生産に関する本邦の産業に重大な損害を与え、又は与えるおそれがある事実（第八項において「本邦の産業に与える重大な損害等の事実」という。）がある場合において、国民経済上緊急に必要があると認められるときは、シンガポール協定第十八条１の規定に基づき、政令で定めるところにより、貨物及び期間（一年以内に限る。）を指定し、次の措置をとることができる。</p> <p>一 同 上</p> <p>二 指定された期間内に輸入される指定された貨物の全部につき、又は当該貨物のうち一定の数量若しくは額を超えるものにつき、次のうちいずれか低い税率の範囲内において関税率を引き上げること。</p> <p>イ 関税率法別表に定める税率（第二条の税率の適用があるときは、その適用される税率）及び協定税率のうちいずれか低いもの（以下この項及び第六項において「実行税率」という。）</p>

において「実行税率」という。）

ロ (省略)

2
12 (省略)

(メキシコの特定の貨物に係る関税の緊急措置)

第七条の九 経済上の連携の強化に関する日本国とメキシコ合衆国との間の協定(以下「メキシコ協定」という。)(に基づく関税の譲許(以下この条において単に「譲許」という。)(による特定の種類の貨物(メキシコ協定第五条1の規定に基づき譲許の便益の適用を受けるものに限る。)(の輸入の増加の事実(第八項及び第十項において「メキシコ特定貨物の輸入増加の事実」という。)(があり、当該貨物の輸入の増加が重要な原因となつて、これと同種の貨物その他用途が直接競合する貨物の生産に関する本邦の産業に重大な損害を与え、又は与えるおそれがある事実(第八項及び第十項において「本邦の産業に与える重大な損害等の事実」という。)(がある場合において、国民経済上緊急に必要があると認められるときは、メキシコ協定第五十三条1及び2の規定に基づき、政令で定めるところにより、貨物及び期間(第十項の規定により指定された期間と通算して三年以内に限る。)(を指定し、次の措置をとることができる。

一 指定された貨物についてメキシコ協定附属書一の日本国の表に基づき更なる関税率の引下げを行うものとされている場合において、指定された期間内に輸入される当該指定された貨物の全部につき、又は当該貨物のうち一定の数量若しくは額を超えるものにつき、更なる関税率の引下げを行わないものとする。

二 指定された期間内に輸入される指定された貨物の全部につき、又は当該貨物のうち一定の数量若しくは額を超えるものにつき、次のうちいずれか低い税率の範囲内において関税率を引き上げること。

イ 実行税率

ロ メキシコ協定の効力発生の日の前日における実行税率

ロ 同上

2
12 同上

- 2| 前項の規定による措置をとる場合において、特別の理由により必要があると認められるときは、メキシコ協定第五十三条5の規定に基づき、当該措置につき第十項の規定により指定された期間と通算して三年を超え四年以内の期間を指定することができる。この場合においては、当該措置は、当該指定しようとする期間内において段階的に緩和されたものでなければならない。
- 3| 第一項の規定による措置がとられている場合において、特別の理由により必要があると認められるときは、メキシコ協定第五十三条5の規定に基づき、政令で定めるところにより、同項の規定により指定された期間を第十項の規定により指定された期間と通算して四年以内に限り延長することができる。
- 4| 政府は、前項の規定に基づき、第一項の規定により指定された期間を第十項の規定により指定された期間と通算して三年を超えて延長する場合には、メキシコ協定第五十三条5の規定に基づき、当該措置を段階的に緩和するものとする。
- 5| 特定の貨物につき第一項の規定による措置をとる場合又はとつた場合には、メキシコ協定第五十三条9に規定する協議により、政令で定めるところにより、当該貨物以外の貨物で譲許がされているものにつきその譲許を修正し、又は譲許がされていないものにつき新たに譲許をし、その修正又は譲許をした後の税率を適用することができる。
- 6| メキシコにおいてメキシコ協定第五十三条1及び2の規定による措置（次項において「メキシコの緊急措置」という。）がとられた場合には、メキシコ協定第五十三条11の規定に基づき、政令で定めるところにより、譲許がされている貨物を指定し、その貨物の全部又は一部につき譲許の適用を停止し、実行税率の範囲内の税率による関税を課することができる。
- 7| 前二項の規定による措置は、それぞれその効果が第一項の規定による措置の補償又はメキシコの緊急措置に対する対抗措置として必要な限度を超えず、かつ、その国民経済に対する影響ができるだけ少ないものとするような配慮のもとに行わなければならない。
- 8| 政府は、メキシコ特定貨物の輸入増加の事実及びこれによる本邦の産業に与え

る重大な損害等の事実についての十分な証拠がある場合において、必要があると認めるときは、これらの事実の有無につき調査を行うものとする。

9| 前項の調査は、当該調査を開始した日から一年以内に終了するものとする。ただし、特別の理由により必要があると認められる場合には、その期間を六月以内に限り延長することができる。

10| 政府は、第八項の調査が開始された場合において、その調査の完了前においても、十分な証拠により、メキシコ特定貨物の輸入増加の事実及びこれによる本邦の産業に与える重大な損害等の事実を推定することができ、国民経済上特に緊急に必要なであると認められるときは、メキシコ協定第五十四条1及び4の規定に基づき、政令で定めるところにより、貨物及び期間（二百日以内に限る。）を指定し、次の措置をとることができる。

一 指定された貨物についてメキシコ協定附属書一の日本国の表に基づき更なる関税率の引下げを行うものとされている場合において、指定された期間内に輸入される当該指定された貨物の全部につき、又は当該貨物のうち一定の数量若しくは額を超えるものにつき、更なる関税率の引下げを行わないものとする。

二 指定された期間内に輸入される指定された貨物の全部につき、又は当該貨物のうち一定の数量若しくは額を超えるものにつき、次のうちいずれか低い税率の範囲内において関税率を引き上げること。

イ 実行税率

ロ メキシコ協定の効力発生の日の前日における実行税率

11| 政府は、第八項の調査が終了したときは、第一項の規定による措置をとる場合を除き、前項の規定により課された関税を当該調査が終了した日から六十日以内に還付しなければならない。同項の規定により課された関税の額が、同項の規定による措置がとられていた期間内に輸入される同項の規定により指定された貨物につき、第一項の規定により関税が課されるものとした場合に課される関税の額を超える場合における当該超える部分の関税についても、同様とする。

12 第一項の規定による措置がとられていた貨物については、これらの措置が終了した日からこれらの措置がとられていた期間に相当する期間又は一年間のいずれが長い期間を経過した日以後でなければ、同項又は第十項の規定による措置をとることができる。

13 政府は、メキシコ協定の効力発生の日から起算して十年を経過する日までの間に限り、第一項又は第十項の規定による措置をとることができる。

14 第八条の七第一項、第二項及び第四項並びに第八条の八第一項に規定する譲許の便益の適用を受ける物品については、第一項又は第十項の規定は、適用しない。

15 前各項に定めるもののほか、これらの規定の適用に関し必要な事項は、政令で定める。

(鉱工業産品等に対する特恵関税の適用の停止の特例等)

第八条の四 前条第一項の規定にかかわらず、平成十三年度から平成二十二年度までの各年度において、特恵受益国等を原産地とする特定鉱工業産品等のうち第八条の二第一項の規定の適用を受けることができるもの(以下この条において「特定特恵鉱工業産品等」という。)(について、その輸入額又は輸入数量(以下この条において「輸入額等」という。)(が、あらかじめ財務大臣が告示する額又は数量(以下この条において「限度額等」という。)(を超えることとなつたときは、財務大臣は、その超えることとなつた特定特恵鉱工業産品等及びその超えることとなつた月を告示するものとし、当該月の翌月十五日の翌日から当該年度の末日までに輸入申告(同項の規定の適用を受けることができるものとされていた期間中に関税法第四十三条の三第一項(保税蔵置場に外国貨物を置くこと)の承認)(同法第六十二条において準用する場合を含む。)(又は第六十二条の十(総合保税地域に外国貨物を置くこと等の承認)(の承認の申請(以下この項及び第八条の七第四項において「蔵入れ申請等」という。)(がされた物品に係るものを除くものとし、同法第七十六条第三項(郵便物を受け取つた旨の通知)(の規定による通知

(鉱工業産品等に対する特恵関税の適用の停止の特例等)

第八条の四 前条第一項の規定にかかわらず、平成十三年度から平成二十二年度までの各年度において、特恵受益国等を原産地とする特定鉱工業産品等のうち第八条の二第一項の規定の適用を受けることができるもの(以下この条において「特定特恵鉱工業産品等」という。)(について、その輸入額又は輸入数量(以下この条において「輸入額等」という。)(が、あらかじめ財務大臣が告示する額又は数量(以下この条において「限度額等」という。)(を超えることとなつたときは、財務大臣は、その超えることとなつた特定特恵鉱工業産品等及びその超えることとなつた月を告示するものとし、当該月の翌月十五日の翌日から当該年度の末日までに輸入申告(同項の規定の適用を受けることができるものとされていた期間中に関税法第四十三条の三第一項(保税蔵置場に外国貨物を置くこと)の承認)(同法第六十二条において準用する場合を含む。)(又は第六十二条の十(総合保税地域に外国貨物を置くこと等の承認)(の承認の申請(以下この項において「蔵入れ申請等」という。)(がされた物品に係るものを除くものとし、同法第七十六条第三項(郵便物を受け取つた旨の通知)(の規定による通知を含む。)(又は蔵入れ

を含む。)又は蔵入れ申請等がされるものについては、第八条の二第一項の規定は、適用しない。一の特恵受益国等を原産地とする一の特恵特定特恵鉱工業製品等の各年度における輸入額等が、当該特定特恵鉱工業製品等に係る限度額等の五分の一を超えることとなつたときも、当該特恵受益国等を原産地とする当該特定特恵鉱工業製品等について、また同様とする。

2~4 (省略)

(メキシコ協定に基づく関税割当制度等)

第八条の七 メキシコ協定附属書一の日本国の表において関税の譲許が一定の数量を限度として定められている物品(次項及び次条に規定する物品を除く。)については、その譲許の便益は、当該一定の数量の範囲内において、当該物品の使用の実績及び見込みその他国民経済上の必要な考慮に基づいて政府が行う割当てを受けた者がその受けた数量の範囲内で平成二十二年三月三十一日までに輸入するものに適用する。

2 メキシコ協定附属書一の日本国の表において関税の譲許が一定の数量を限度として定められている物品のうち輸出国が発給する証明書に基づき輸入国が割当てを行うこととされているもの(次条に規定する物品を除く。)については、その譲許の便益は、当該一定の数量の範囲内において、メキシコが発給する証明書に基づいて政府が行う割当てを受けた者がその受けた数量の範囲内で平成二十二年三月三十一日までに輸入するものに適用する。

3 前二項の割当ての方法、割当てを受ける手続その他前二項の規定の適用に関して必要な事項は、政令で定める。

4 平成二十三年度までの各年度において、メキシコ協定附属書一の日本国の表において関税の譲許が一定の額を限度の基準として定められている物品について、その輸入額が、当該一定の額を超えることとなつたときは、財務大臣は、その超えることとなつた物品及びその超えることとなつた月を告示するものとし、当該月の翌月の初日から当該年度の末日までに輸入申告(当該譲許の便益の適用を

申請等がされるものについては、第八条の二第一項の規定は、適用しない。一の特恵受益国等を原産地とする一の特恵特定特恵鉱工業製品等の各年度における輸入額等が、当該特定特恵鉱工業製品等に係る限度額等の五分の一を超えることとなつたときも、当該特恵受益国等を原産地とする当該特定特恵鉱工業製品等について、また同様とする。

2~4 同上

受けることができるものとされていた期間中に蔵入れ申請等がされた物品に係るものを除くものとし、関税法第七十六条第三項（郵便物を受け取った旨の通知）の規定による通知を含む。）又は蔵入れ申請等がされるものについては、当該譲許の便益は、適用しない。

5| 前項の輸入額は、関税法第百二条第一項第一号の統計の数値又は当該統計の作成方法に準じて、メキシコ協定附属書一の日本国の表において同一の注釈番号が付されている物品ごとに毎月集計し、これを順次加算して算出するものとする。

（メキシコ協定に基づく市場の開拓等を目的とした関税割当制度）

第八条の八| メキシコ協定附属書一の日本国の表において関税の譲許が一定の数量を限度として定められている物品のうち輸出国が市場の開拓及び販売の促進を目的として発給する証明書に基づき輸入国が市場の開拓及び販売の促進を目的として割当てを行うこととされているものについては、その譲許の便益は、当該一定の数量の範囲内において、当該物品の使用の実績及び見込みその他国民経済上の必要な考慮並びにメキシコが発給する証明書に基づいて政府が行う割当てを受けた者がその受けた数量の範囲内で平成十九年三月三十一日までに輸入するものに適用する。

2| 前項の割当ての方法、割当てを受ける手続その他同項の規定の適用に関して必要な事項は、政令で定める。

（軽減税率等の適用手続）

第八条の九| 別表第一に掲げる物品のうち、同表において特定の用途に供するものであることを要件として、当該物品に係る特定用途に供することを要件としない税率よりも低い税率（以下「軽減税率」という。）が定められているもので政令で定めるものについて、軽減税率の適用を受けようとする者は、政令で定める手続をしなければならない。

2| メキシコ協定附属書一の日本国の表において関税の譲許が特定の用途に供する

（軽減税率の適用手続）

第八条の七| 同上

ものであることを要件としている物品で政令で定めるものについて、その譲許の便益の適用を受けようとする者は、政令で定める手続をしなければならぬ。

(用途外使用等の制限)

第九条 第四条の規定により関税の免除を受け、又は前条第一項の軽減税率若しくは同条第二項の譲許の便益の適用を受けた物品は、その輸入の許可の日から二年以内に、その免除を受け、若しくは軽減税率若しくは譲許の便益の適用を受けた用途以外の用途に供し、又はこれらの用途以外の用途に供するため譲渡してはならない。ただし、やむを得ない理由がある場合において、政令で定めるところにより税関長の承認を受けたときは、この限りでない。

(用途外使用等の承認があつた場合の関税の徴収)

第十条 前条ただし書の承認を受けたとき、又は当該承認を受けないで同条の物品を同条に規定する用途以外の用途に供し、若しくはその用途以外の用途に供するため譲渡したときは、これらの場合に該当することとなつた者から、次の各号に掲げる物品の区分に応じ、それぞれ当該各号に掲げる額の関税を直ちに徴収する。この場合において、当該承認を受けた物品につき使用による減耗、変質その他のやむを得ない理由による価値の減少があつたときは、関税率法第十条第一項(変質又は損傷による減税)の規定に準じてその関税を軽減することができる。

一 (省略)

二 第八条の九第一項の軽減税率又は同条第二項の譲許の便益の適用を受けた物品については、特定の用途に供することを要件としない税率により計算した関税の額と当該軽減税率又は当該譲許の便益による税率により計算した関税の額との差額

(関税の免除等を受けた物品の転用)

第十条の二 関税率法第二十条の三(関税の軽減、免除等を受けた物品の転用)

(用途外使用等の制限)

第九条 第四条の規定により関税の免除を受け、又は前条の軽減税率の適用を受けた物品は、その輸入の許可の日から二年以内に、その免除を受け、又は軽減税率の適用を受けた用途以外の用途に供し、又はこれらの用途以外の用途に供するため譲渡してはならない。ただし、やむを得ない理由がある場合において、政令で定めるところにより税関長の承認を受けたときは、この限りでない。

(用途外使用等の承認があつた場合の関税の徴収)

第十条 前条ただし書の承認を受けたとき、又は当該承認を受けないで同条の物品を同条に規定する用途以外の用途に供し、若しくはその用途以外の用途に供するため譲渡したときは、これらの場合に該当することとなつた者から、次の各号に掲げる物品の区分に応じ、それぞれ当該各号に掲げる額の関税を直ちに徴収する。この場合において、当該承認を受けた物品につき使用による減耗、変質その他のやむを得ない理由による価値の減少があつたときは、関税率法第十条第一項(変質又は損傷による減税)の規定に準じてその関税を軽減することができる。

一同上

二 第八条の七の軽減税率の適用を受けた物品については、特定の用途に供することを要件としない税率により計算した関税の額と当該軽減税率により計算した関税の額との差額

(関税の免除等を受けた物品の転用)

第十条の二 関税率法第二十条の三(関税の軽減、免除等を受けた物品の転用)

の規定は、第四条の規定により関税の免除を受け、又は第八条の九第一項の軽減税率若しくは同条第二項の譲許の便益の適用を受けた物品が、その免除を受け、若しくは軽減税率若しくは譲許の便益の適用を受けた用途以外の用途に供され、又はこれらの用途以外の用途に供するため譲渡される場合について準用する。

(税関職員の権限)

第十一条 関税法第一百五条第一項第四号の二(加工等のため輸出された貨物に係る税関職員の権限)の規定は、輸出された貨物で第八条に規定するものについて、同項第五号(製造用原料品等に係る税関職員の権限)の規定は、第四条の規定により関税を免除した場合、第六条第一項若しくは第七条第一項の規定により関税の還付をする場合又は第八条の九第一項の軽減税率若しくは同条第二項の譲許の便益を適用した場合について、それぞれ準用する。この場合において、第六条第一項及び第七条第一項、第八条の九第一項又は同条第二項の規定に係る場合には、同号中「関税の軽減若しくは免除を受けた貨物」とあるのは、それぞれ、「関税の還付に係る貨物」、「軽減税率の適用を受けた貨物」又は「関税の譲許の便益の適用を受けた貨物」と読み替えるものとする。

2及び3 (省略)

別表第一 暫定関税率表(第二条、第七条の三、第七条の四、第八条の二、第八条の三、第八条の六、第八条の九関係)

の規定は、第四条の規定により関税の免除を受け、又は第八条の七の軽減税率の適用を受けた物品が、その免除を受け、若しくは軽減税率の適用を受けた用途以外の用途に供され、又はこれらの用途以外の用途に供するため譲渡される場合について準用する。

(税関職員の権限)

第十一条 関税法第一百五条第一項第四号の二(加工等のため輸出された貨物に係る税関職員の権限)の規定は、輸出された貨物で第八条に規定するものについて、同項第五号(製造用原料品等に係る税関職員の権限)の規定は、第四条の規定により関税を免除した場合、第六条第一項若しくは第七条第一項の規定により関税の還付をする場合又は第八条の七の軽減税率を適用した場合について、それぞれ準用する。この場合において、第六条第一項及び第七条第一項又は第八条の七の規定に係る場合には、同号中「関税の軽減若しくは免除を受けた貨物」とあるのは、それぞれ、「関税の還付に係る貨物」又は「軽減税率の適用を受けた貨物」と読み替えるものとする。

2及び3 同上

別表第一 暫定関税率表(第二条、第七条の三、第七条の四、第八条の二、第八条の三、第八条の六、第八条の七関係)

(傍線の部分は改正部分)

改 正 案	現 行
<p>輸入品に対する内国消費税の徴収等に関する法律（昭和三十年法律第三十七号）</p> <p>（相殺関税等が還付される場合の消費税の還付）</p> <p>第十四条 輸入された課税物品のうち次に掲げる規定により当該課税物品に係る関税額の全部又は一部が還付されるものについては、当該還付される関税額に係る消費税額に相当する金額として政令で定めるところにより計算した金額を還付する。</p> <p>一～四 （省略）</p> <p>五 関税暫定措置法第七条の九第十一項（メキシコの特定の貨物に係る暫定緊急措置に係る関税の還付）</p> <p>2 前項（第二号）（関税率法第八条第十一項に係る部分に限る。）及び第三号から第五号までに係る部分に限る。（）の規定による還付金については、国税通則法第五十八条第一項（還付加算金）の規定は、適用しない。</p> <p>3 （省略）</p>	<p>輸入品に対する内国消費税の徴収等に関する法律（昭和三十年法律第三十七号）</p> <p>（相殺関税等が還付される場合の消費税の還付）</p> <p>第十四条 輸入された課税物品のうち次に掲げる規定により当該課税物品に係る関税額の全部又は一部が還付されるものについては、当該還付される関税額に係る消費税額に相当する金額として政令で定めるところにより計算した金額を還付する。</p> <p>一～四 同上</p> <p>2 前項（第二号）（関税率法第八条第十一項に係る部分に限る。）（）、第三号及び第四号に係る部分に限る。（）の規定による還付金については、国税通則法第五十八条第一項（還付加算金）の規定は、適用しない。</p> <p>3 同上</p>